



# 増田さんがギター弾き語り

大熊で交流館 区民向けコンサート

5月の毎週木曜日に「飯盛松」や「ひだまり」とい  
う名で大熊地区区民が体を  
動かしたり、お茶飲み話を  
したりして交流する場が大  
熊会館で開かれ、最終日  
の25日には大熊会館で記  
念コンサートが開かれた。  
増田正明さん(71・三ツ  
和)がギター弾き語り  
で「天城越え」や「無縁坂」  
などを披露。「かあさんの  
歌」ではギター伴奏にの  
せて参加者みんなで歌う場  
面もあった。弾き語りだけ  
でなく、朗読とギター演奏  
をしっかりと聴かせる場面  
もあった。  
約1時間半にわたって、  
区民約30人が演奏を楽しみ  
ながら交流した。



ギターの弾き語りを披露す  
る増田さん(上)。かあさんの  
歌では伴奏に合わせて参加  
者みんなで歌った(下)



## 話したり体を 動かしたりして交流を

活動を始めて 飯盛松は  
3年目 ひだまりは2年目。  
「家に関心もっているの  
ではなく、話したり体を

動かしたりしてほしい」と  
両会の指揮をとり、コンサ  
ートの司会を務めた酒井忠  
雄さん(80・大熊)。

こういった活動をするき  
っかけとなったのは、高齢  
になってから突発性難聴を  
患い、元気なうちから生活  
改善を目的とした「わがが  
えり教室」へ参加し、病が  
次第に軽くなり「家に閉じ  
こもっているのではなく、  
話したり体を動かしたり  
した方がよい」と感じたた  
め。以後「高齢者を元氣に」  
と中野市の認知症サポ  
ーターやアフレコ介護  
予防サポーターとしても活  
動している。

6月からは自宅に「憩い  
の場 縁側」を設け、酒井  
さんは「こんな人でも誰  
に寄つて」と呼びかけてい  
る。回所は高齢者が交流す  
る場として始動する予定。  
休日は木曜日・日曜日し  
ている。

◆前代未聞の大惨事が発生した。ま  
さかんなどがな場所と、誰もが  
口をそろえる。談笑しながら歩く2人  
の姿を見て、自分のことを罵詈雑言に  
されている勘違いが引き起こした残酷  
な事件。これもコロナの影響が、人と  
人を引き離し、交流や会話を壁を作  
った。地域活動の際にあいさつでも交  
わせば、と悔やむ。ようやくコロ  
ナの影響が落ち着いてきた。そのタ  
イミングを迎えたばかりの時に。(E)

# パチ

◆信州なかのバラまつりが開催中。  
開幕すべの土日は天候も恵まれ、一本  
木公園のバラを楽しみにしていた人の  
笑顔が満開だ。日曜日の昼下がりに園内  
へ。ステージでローズクエスタ合唱団  
による野はらの合唱が始まる。奏敵  
な歌聲と咲いたバラの香りと、午後  
の涼しい風。この瞬間をカメラでパチ

リ。写真では香りや温度は伝わらない  
が、これが伝えられるように今日も試  
行錯誤しながらカメラを構える。(藤)  
◆きき酒選手権を取材と初参戦。目  
の前に配られた7種の清酒は、かすかに  
色の違うものもあつたが、見た自変  
わりを利き分けられる気がまったくし  
ない。いざ、香りや口に含んだ感覚で  
寸評をメモ。確かに違いがわかる。け  
んど7種パチッと当たられる自信はな  
い。結果は、目の前に座った陽気な食  
に熱心なアメリカ出身の紳士がパチ  
エクトで優勝をかつぎとった。國酒  
興が深い。出直してまいります。(紗)  
◆中野市の立てこもり事件が発生し  
地域に衝撃が走った。連日の報道に目  
を通し、状況がわかるにつれてあまり  
の惨劇に声にならない。飯水岳北防犯  
協会の運営総会で飯山署の田中務署長  
は地域住民による協力が不可欠で、地  
域防犯の重要性について力を込めた。多  
様性という言葉は広まりながらも家  
族、周辺住民にとって対応は手探り。  
専門家の介入、家族の相談などが気軽  
にできる社会の実現を強く望む。(銅)











# 教育にアート 美術鑑賞 の手法を 演劇体験

## 県・県教委新事業



食べ物の絵を見ながら気づいたことを話し合う「対話型鑑賞」を体験する教員ら＝5月31日、東御市

### 子どもの主体性・創造性獲得図る

県と県教委は本年度、美術作品の鑑賞や演劇の体験といったアート（芸術）の手法を教育現場で生かす事業に乗り出す。文化芸術の特性を子どもの主体性、創造性獲得につながる試み。手法を取り入れたプログラムを美術科目などで実施する小中高校など6校を12日まで募集している。

同様の取り組みは近年、文部科学省が推進し、県は2019年以降、小学校を中心としたモデル授業を実施。23年度から5年間の文化芸術振興の施策の方向性を示す県第2次文化芸術振興計画でも重点施策に位置づけている。

事業は、芸術の楽しみ方は他人との協力や連携が必要な演劇やダンスを通じて、コミュニケーション」は、

#### アートの手法を教育に生かす事業の狙い

##### 【児童生徒】

- 互いの見方や考え方を認め合い、表現力などを培う
- 美術作品を鑑賞して発見を共有し、観察力を磨く
- 友達との協力が必要な表現活動でコミュニケーション力を高める
- 新しい自分や知らなかった友達の一面に気づく

##### 【学校・教員】

- 芸術の楽しみ方に正解はない一との視点で児童生徒に接する
- 美術に限らず、他の授業への展開も研究・応用する

正解がないという視点を重視し、子どもたちが互いの見方や考え方を認め合い、表現力などを培うのが大きな狙いだ。

プログラムは現時点で2種類を用意。「対話型鑑賞」は、グループで美術作品を鑑賞して発見や疑問を共有して観察力を磨き、他人の考えを理解する力を深める。「表現とコミュニケーション」は、

他人との協力や連携が必要な演劇やダンスを通じて、コミュニケーション」は、

コミュニケーション力やチームワークを高める。プログラム実施校は講師の派遣など、費用を含めた支援を受けられる。

県と県教委は、プログラム内容を発展させ美術以外の科目へも応用・普及させるため教員向け講習会を各地で企画する。5月31日に東御市で開いた初回は、小中学校や特別支援学校の教員らが参加。対話型鑑賞では食卓に並んだ料理を描いた絵画を見ながら気づいた点を自由に発言し合った。前後の人が同じポーズをとる身体表現のプログラムもあった。

参加した南佐久郡小海町の小海中美術科教諭、赤羽雄太さん(35)は「子どもたちが新しい自分や知らなかった友達的一面に気づくきっかけになりそう」と話していた。

7日に記者会見して正式表明

市議選には出馬しなかった

中川が出馬の意向を示してお

主総会と取締役会を同空港で

